プレゼンテーション：
　　取締役 常務執行役員　栗田 優一

中間期業績の概要

ADVANTEST

（単位: 億円）

	FY'06 中間期	FY'07 中間期 (前年同期比)	前回予想 ※	予想比増減
受注高	1,152	952 (-17.4%)	1,200	-248
売上高	1,205	1,149 (-4.7%)	1,200	-51
営業利益	322	246 (-23.5%)	260	-14
税引前利益	340	274 (-19.4%)	300	-26
当期純利益	222	169 (-23.8%)	195	-26
受注残	398	332	529	-197

※7月25日決算発表時の予想

2 All Rights Reserved - Advantest Corporation 2007/10/26

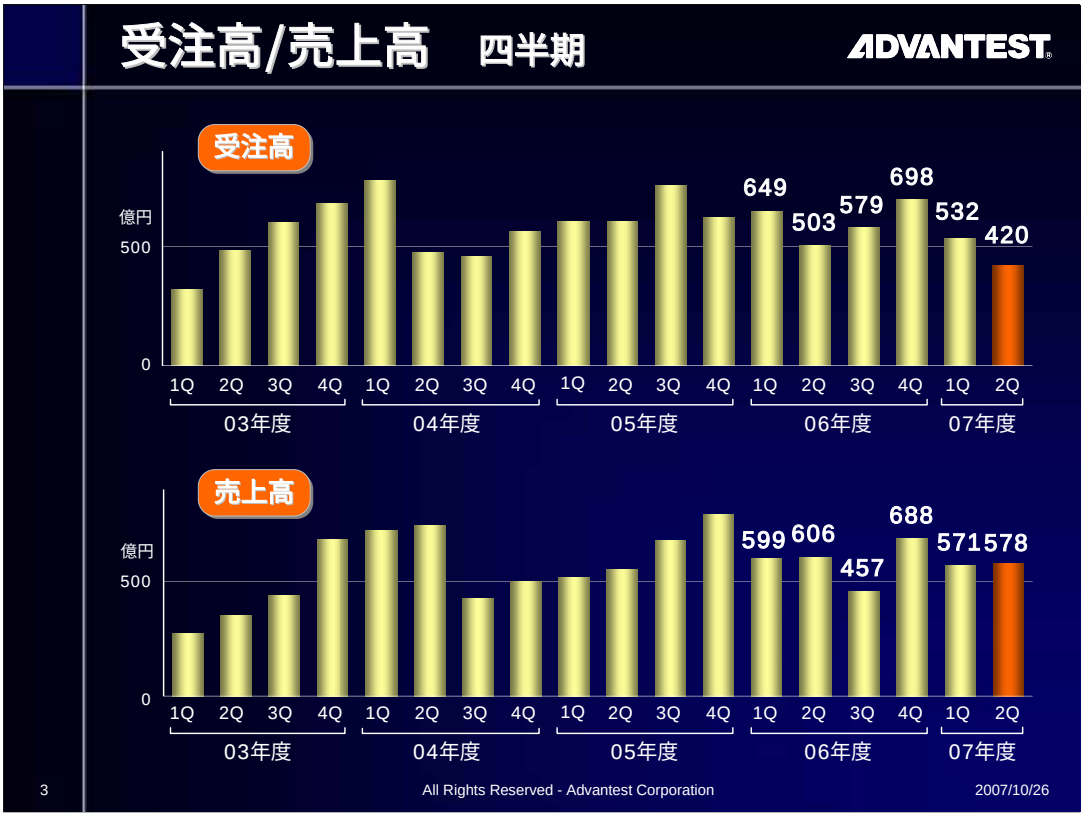
○ 最初に、
　　２００７年度中間期の業績です。

・受注高は、
　前年同期比 １７.４％減の ９５２億円と、
　前回７月に発表した予想を、
　２４８億円下回る結果となりました。

　下回った要因につきましては、
　後ほど、丸山よりご説明いたします。

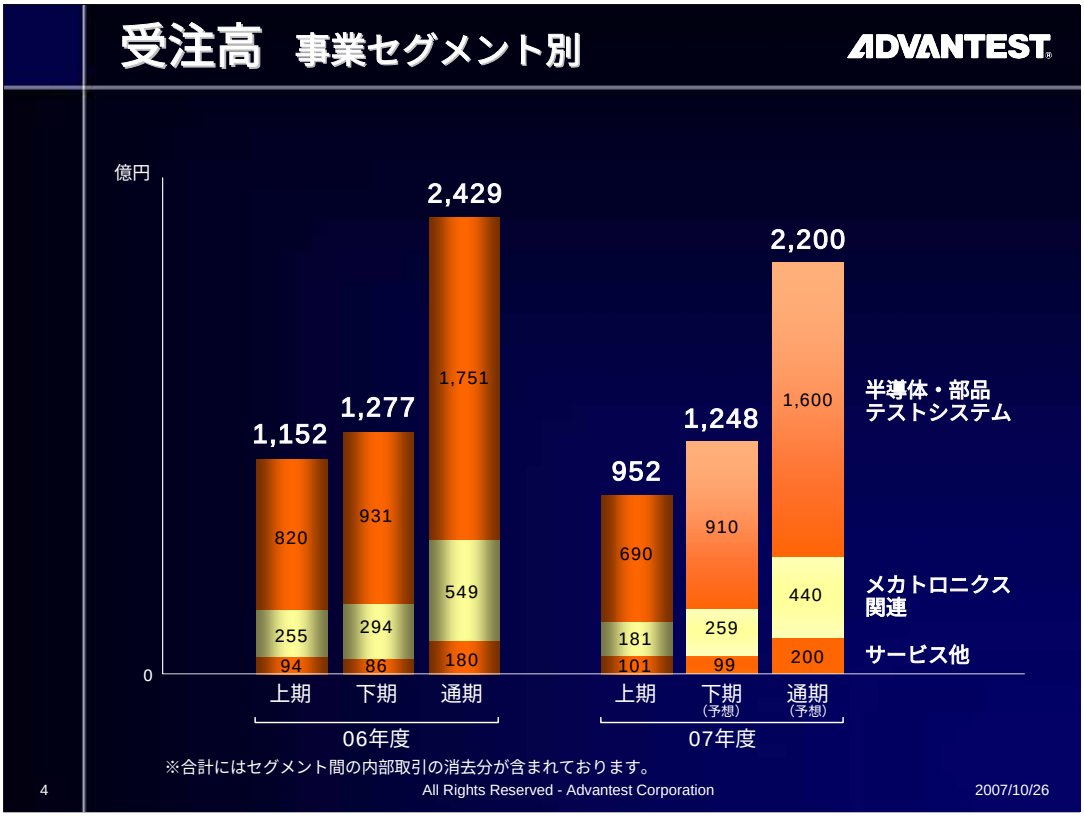
・売上高は、
　２００７年3月末の受注残を消化し、
　予想比では、受注ほどの落ち込みはなかったものの、
　前年同期比 4.7％減の 1,１４９億円となりました。

・営業利益は、
　前年同期比 ２３.５％減の ２４６億円、
・当期純利益は、
　２３.８％減の １６９億円となりました。



○ このグラフは、
　　受注高および売上高の、
　　四半期毎の推移を表したものです。

○ 先ほどご説明した中間期業績と同様に、
　　当第 2四半期の受注高は、
　　今年度の第1四半期と比べ、
　　低調に推移いたしましたが、
　　売上高は、
　　第1四半期とほぼ同水準で推移いたしました。



○ 当中間期の、

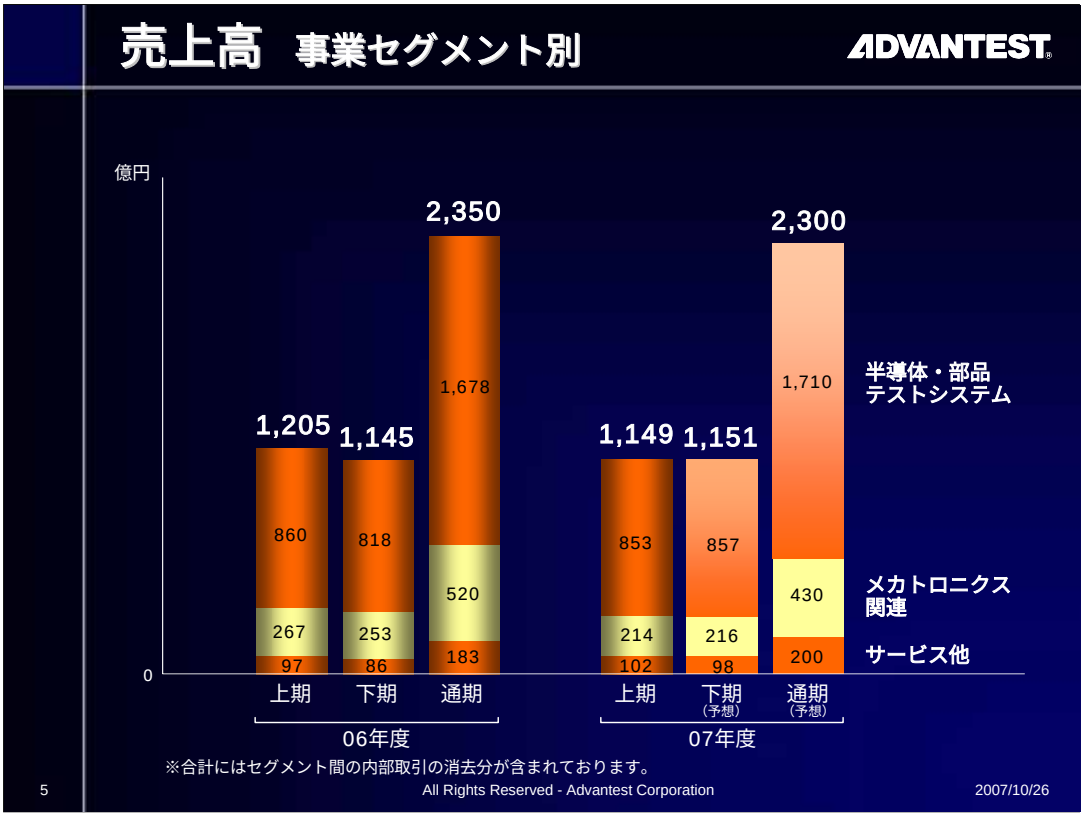
事業セグメント別の受注高ですが、

- 「半導体・部品テストシステム事業」は、
  前年同期比 15.8%減の 690億円、
- 「メカトロニクス関連事業」は、
  29%減の 181億円、
- 「サービス他」は、
  101億円と、なりました。

○ 通期では、

- 「半導体・部品テストシステム事業」を、
  前期比 8.6%減の 1,600億円、
- 「メカトロニクス関連事業」を、
  19.8 %減の 440億円、
- 「サービス他」を、
  200億円と、

それぞれ予想しております。



○ 当中間期の、

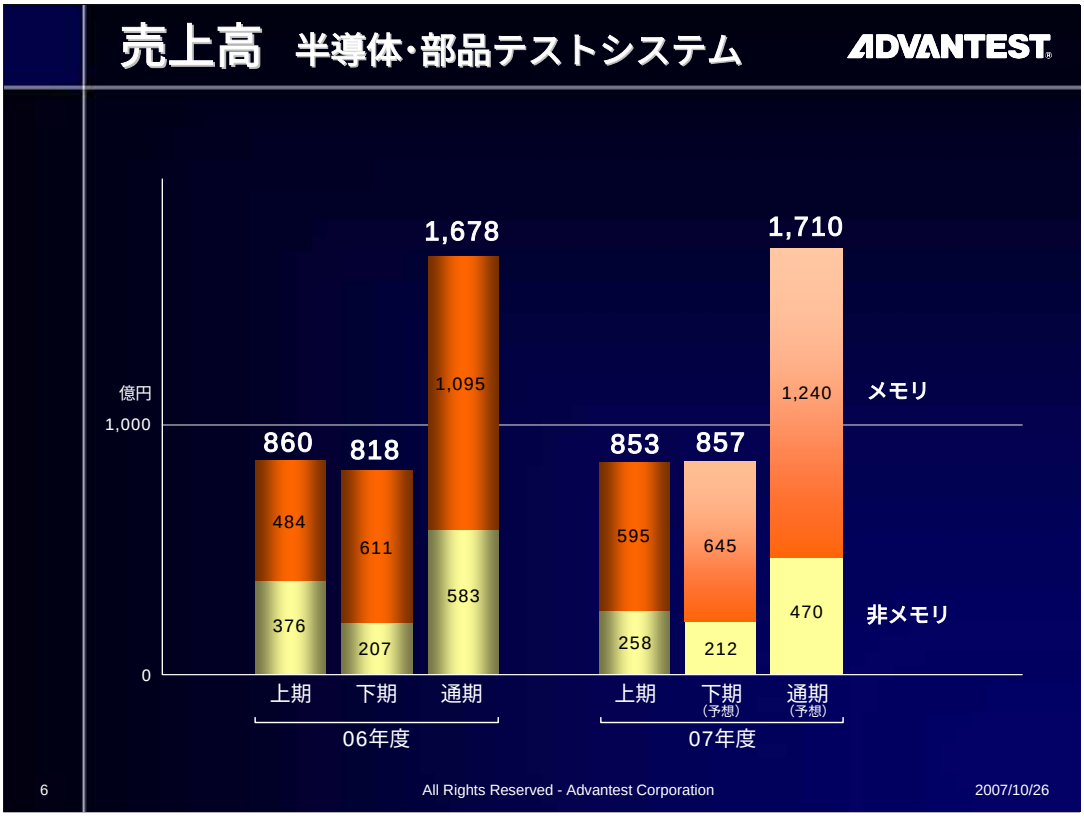
事業セグメント別の売上高ですが、

- 「半導体・部品テストシステム事業」は、
  前年同期比 0.8%減の 853億円、
- 「メカトロニクス関連事業」は、
  19.8%減の 214億円、
- 「サービス他」は、
  102億円と、なりました。

○ 通期では、

- 「半導体・部品テストシステム事業」を、
  前期比 1.9%増の 1,710億円、
- 「メカトロニクス関連事業」を、
  17.3%減の 430億円、
- 「サービス他」を、
  200億円と、

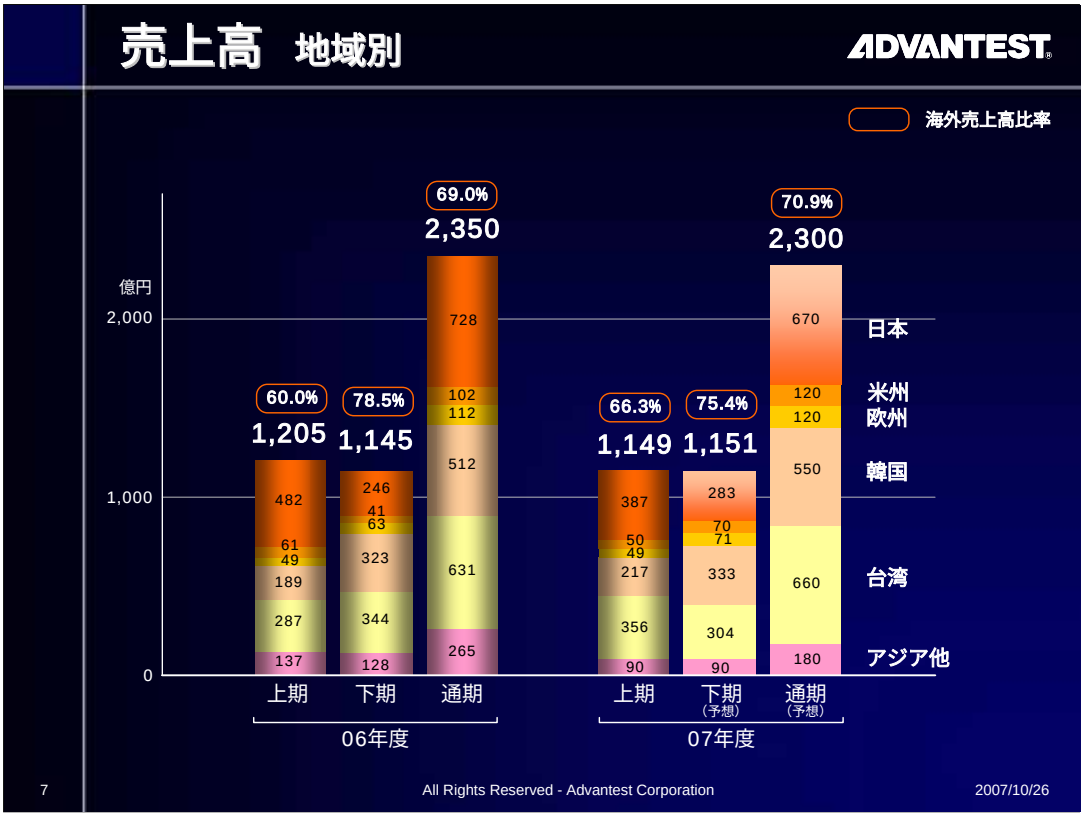
それぞれ予想しております。



○ ここで、
「半導体・部品テストシステム事業」の、
売上高の内訳を見てみますと、

○ 当中間期の、
・メモリ・テスタの売上高は、
フラッシュ・メモリ向けテスタの需要が、
好調に推移したことなどにより、
前年同期比 22.9%増の 595億円、
・非メモリ・テスタの売上高は、
「T2000」や LCDドライバIC向けテスタが、
低調に推移した影響などにより、
前年同期比 31.4%減の 258億円と、
なりました。

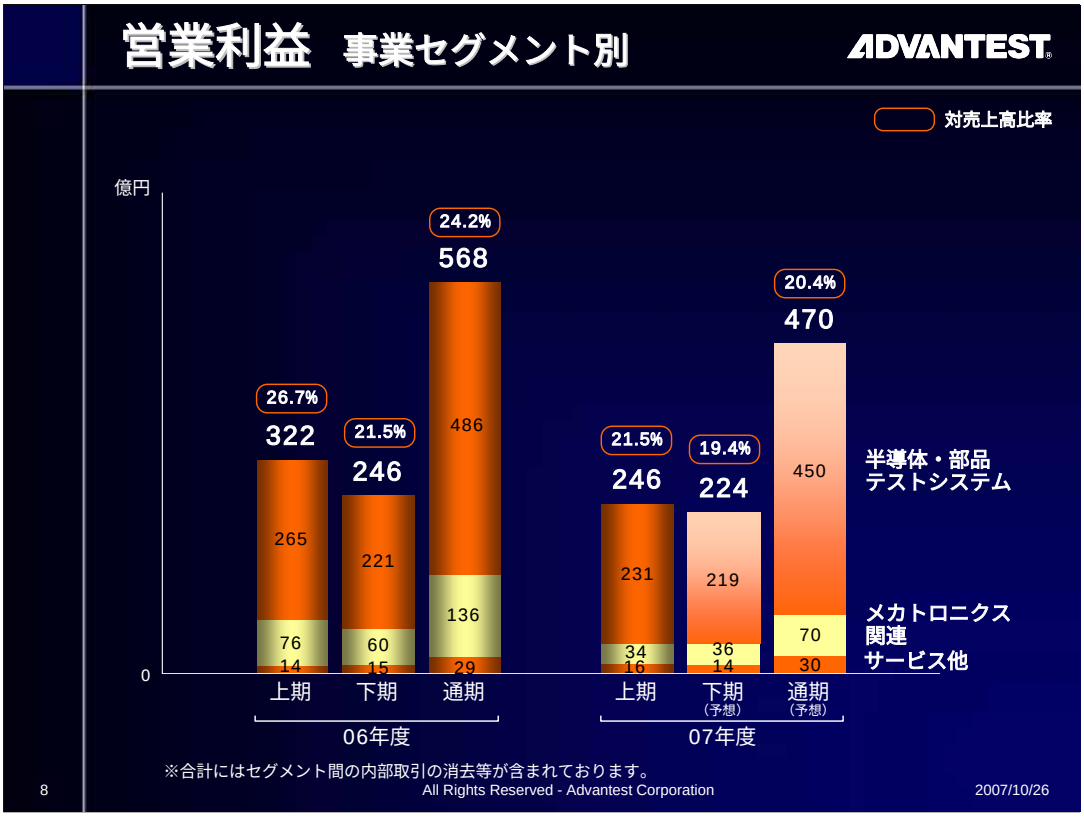
○ 通期では、
・メモリ・テスタの売上高を、
前年同期比 13.2%増の 1,240億円、
・非メモリ・テスタの売上高を、
前期比 19.3%減の 470億円と、
予想しております。



○ これは、地域別の売上高の状況です。

○ 当中間期は、
　　前年同期比で見ますと、
　　日本が、
　　１９.７％減の ３８７億円となり、
　　一方、台湾では、
　　２４.２％増の ３５６億円となりました。
　　また、その他の地域では、
　　ほぼ同水準で推移いたしました。

○ 通期では、
　　下期の売上高が、
　　日本で減少する一方、
　　欧米、韓国での設備投資の活発化により、
　　海外売上高比率は、
　　前年同期比で約 ２ポイント増加して、
　　７０.９％になると予想しております。

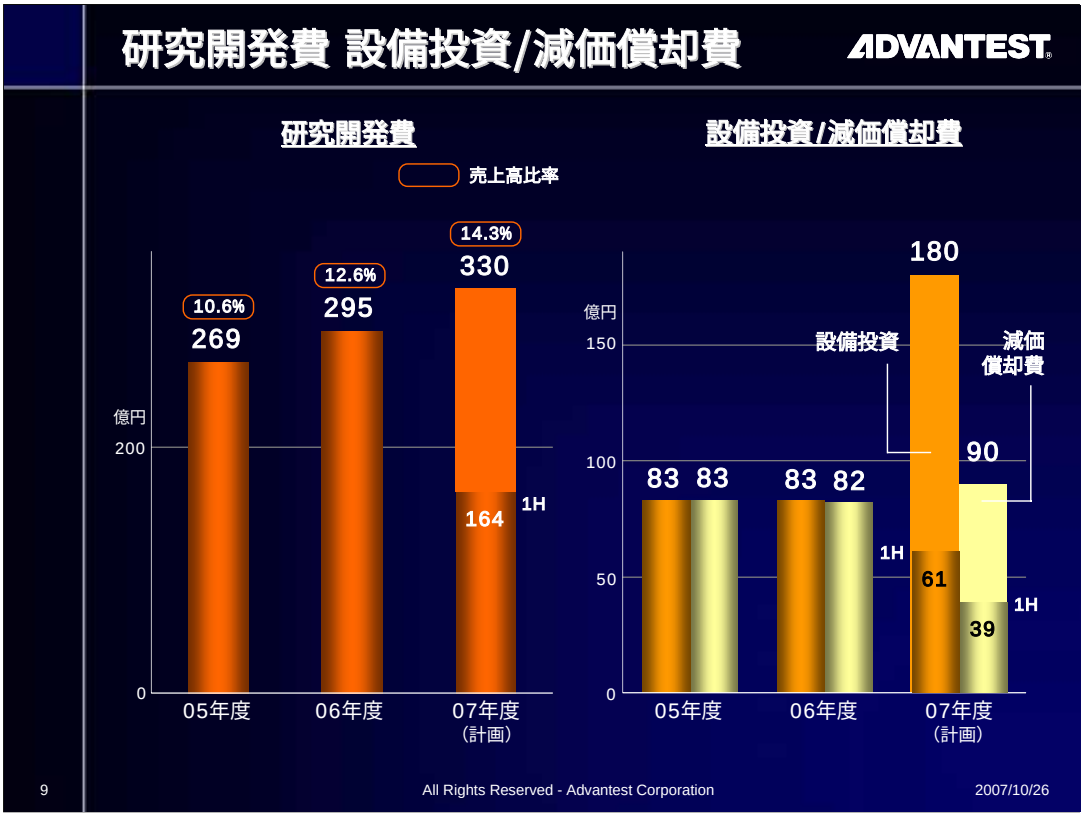


○ 次に、事業セグメント別の営業利益の状況ですが、

○ 当中間期の
「半導体・部品テストシステム事業」は、
前年同期比 12.8%減の 231億円、
「メカトロニクス関連事業」は、34億円、
「サービス他」は、16億円となりました。

○ 通期では、
「半導体・部品テストシステム事業」を、
前年同期比 7.4%減の 450億円、
「メカトロニクス関連事業」を、70億円、
「サービス他」を、30億円と、
それぞれ予想しております。

○ これにより、通期の、
全社の営業利益率は、
前期比で 3.8ポイント悪化して、
20.4%になると予想しております。



○ 研究開発費の状況ですが、
　　当中間期は、
　　１６４億円となりました。

○ 通期では、
　　３３０億円を計画しており、
　　売上高比率は、１４.３%を予想しております。

○ また、当中間期の、
　　設備投資は、６１億円、
　　減価償却費は、３９億円と、
　　なりました。

○ 通期では、
　　設備投資を、１８０億円、
　　減価償却費を、 ９０億円と、
　　計画しております。

バランス・シート

ADVANTEST

（単位: 億円）

	06年3月末	07年3月末	07年9月末	増減
流動資産	2,757	2,948	2,791	-157
(現預金)	(1,579)	(1,964)	(1,704)	-260
(売上債権)	(696)	(543)	(585)	+42
(棚卸資産)	(299)	(320)	(343)	+23
固定資産	751	716	719	+3
総資産	3,508	3,664	3,510	-154
流動負債	768	607	548	-59
固定負債	161	109	98	-11
株主資本	2,579	2,948	2,864	-84
(株主資本比率)	(73.5%)	(80.5%)	(81.6%)	—
負債資本合計	3,508	3,664	3,510	-154

10

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2007/10/26

○ 次に、２００７年9月末現在の、
　　バランス・シートですが、

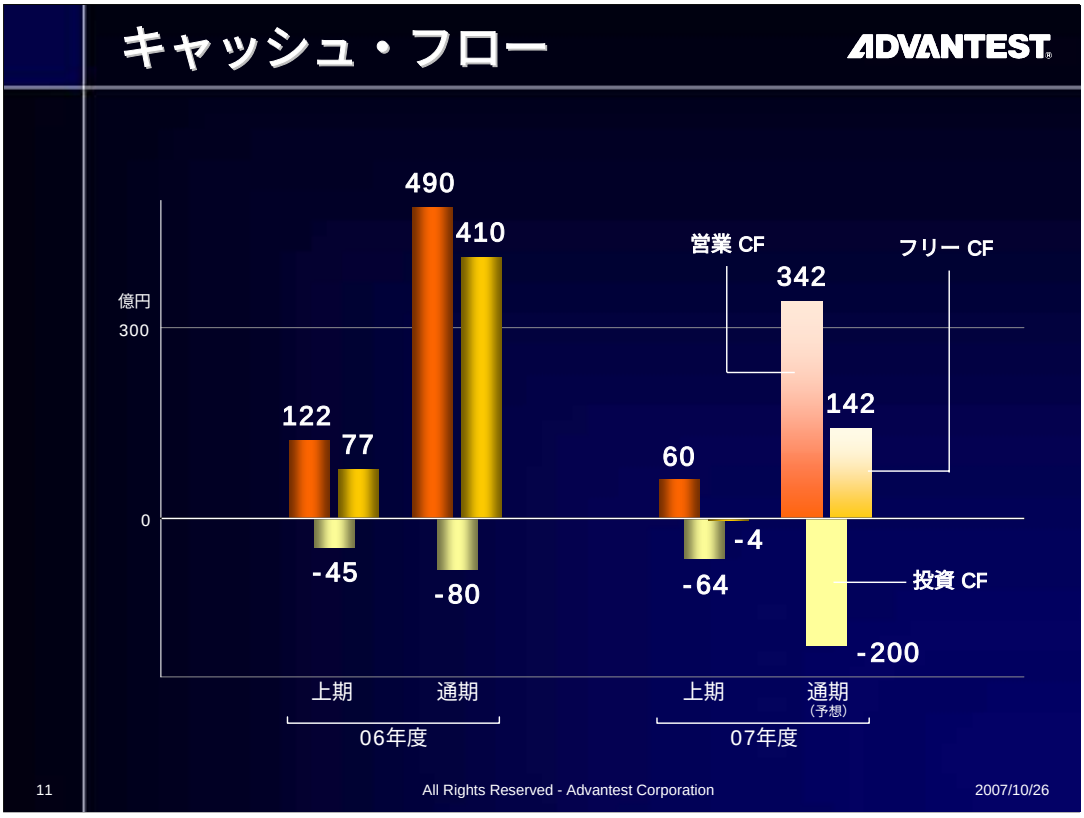
○ 現預金は、
　　今年5月に、
　　総額 １９１億円の、
　　自己株式の取得を行ったことなどにより、
　　3月末比 ２６０億円減の 1,７０４億円となりました。

○ 売上債権は、
　　４２億円増加して ５８５億円となりました。

○ 棚卸資産は、
　　２３億円増加して ３４３億円となりました。

○ これらの結果、総資産は、
　　１５４億円減の 3,５１０億円となりました。

○ また、株主資本比率は、
　　3月末比 1.1ポイント上昇し、
　　８1.6％となっております。



○ 次に、キャッシュ・フローの状況ですが、

○ 当中間期の、
営業活動によるキャッシュ・フローは、
６０億円のプラスとなりました。

○ また、
投資活動によるキャッシュ・フローは、
６４億円の支出となり、
この結果、フリー・キャッシュ・フローは、
４億円のマイナスとなりました。

○ 通期では、
営業活動によるキャッシュ・フローを、３４２億円、
フリー・キャッシュ・フローを、
１４２億円のプラスと予想しております。

通期予想

ADVANTEST

（単位: 億円）

	FY'06		FY'07				
	中間期	通期	中間期	通期（予想）	前期比	前回予想	予想との差異
受注高	1,152	2,429	952	2,200	-9.4%	2,600	-400
売上高	1,205	2,350	1,149	2,300	-2.1%	2,550	-250
営業利益	322	568	246	470	-17.2%	600	-130
税引前利益	340	611	274	510	-16.5%	650	-140
当期純利益	222	356	169	330	-7.2%	420	-90
受注残	398	529	332	429	——	579	-150

12

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2007/10/26

○ 最後に、
　　通期の予想です。

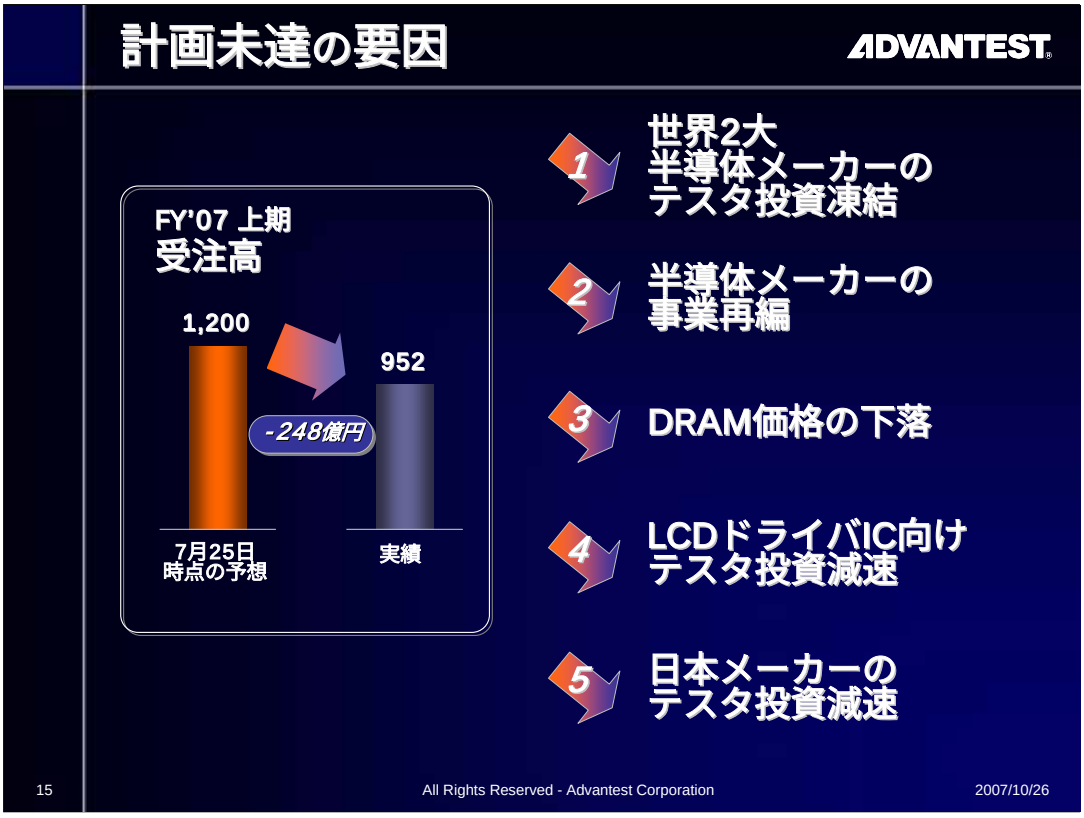
○ このあとすぐに、
　　丸山が詳細をご説明いたしますが、
　　下期は受注の回復を見込み、
　　・受注高は、
　　前年同期比 9.4％減の 2,200億円、
　　・売上高は、
　　2.1％減の 2,300億円、
　　・営業利益は、
　　17.2％減の 470億円、
　　・当期純利益は、
　　7.2％減の 330億円と、
　　7月に発表した通期予想を下方修正いたします。

○ 以上で、私からの説明を終わります。
　　引き続き、社長の丸山よりご説明いたします。

プレゼンテーション：
　　代表取締役 執行役員社長　丸山 利雄

○ 始めに、
　　当中間期の業績が、
　　計画未達となった要因について、
　　分析してみたいと思います。

○ その主な理由について、
　　5つのポイントを挙げて、
　　ご説明いたします。



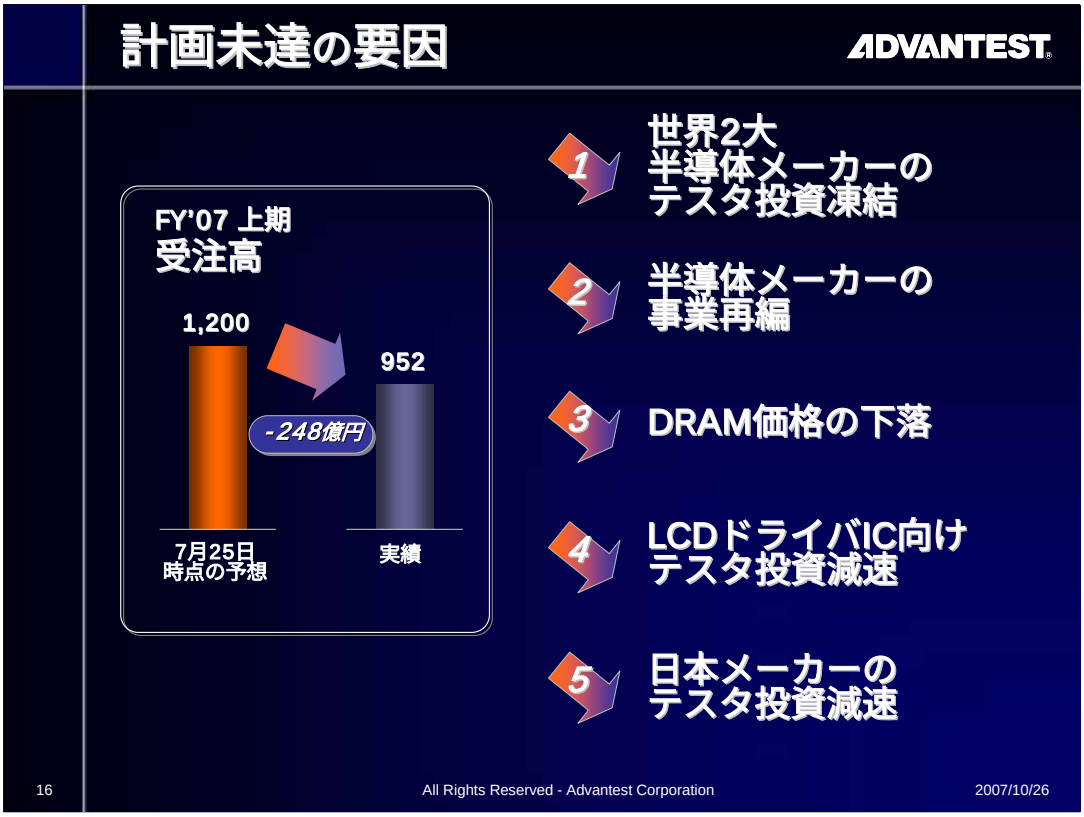
○ 1つ目は、
世界の2大半導体メーカーによる、
リストラクチャリングや、
経営計画の見直しなどによる
設備投資凍結の影響です。

○ 2つ目は、
その他半導体メーカーの事業再編の影響で、
日本のSoCメーカーによる生産設備の売却や、
欧州のメモリICメーカーによる試験工程の外注化などの、
動きがありました。

このような事業再編に伴い、
設備投資を先送りするなどの影響がございました。

○ 3つ目は、
DRAM価格の下落です。
年初には 6ドル前後であったスポット価格が、
直近では、1ドル台と、
およそ 5分の1の水準にまで下落したことから、
テスタへの投資が落ち込みました。

また、一部DRAMメーカーでは、
フラッシュ・メモリ向け設備投資へのシフトがありましたが、
その結果、DRAM向け設備投資で期待する規模には至らず、
メモリ・テスタ分野の受注高にマイナスの影響を及ぼしました。



○ 4つ目は、
　　ＬＣＤドライバIC向けテスタ投資の減速です。

　　昨年度、大変低調に推移したこの分野は、
　　５月半ば、台湾を中心に盛り上がりを見せたものの、
　　高精細な液晶パネルへの需要のシフトが、
　　期待ほど大きくなかったことなどにより、
　　テスタ需要は再び低調となりました。

○ 最後は、
　　日本メーカーのテスタ投資の減速です。

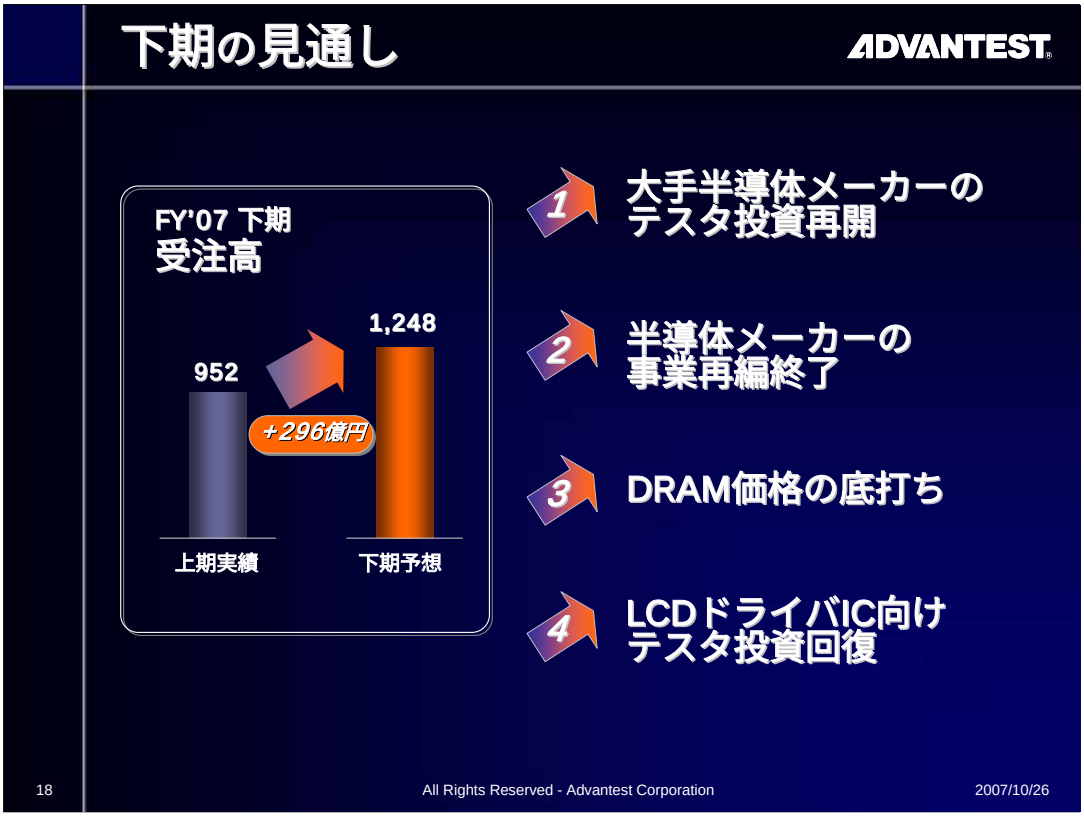
　　デジタル家電のキラー・アプリケーションが、
　　不在であったことで、
　　テストハウスなどが投資計画を下方修正するなどの、
　　動きがありました。

○ 以上、５つの要因により、
　　合計で ２５０億円ほどの未達になったと、
　　分析いたします。

○ 次に、
　　下期の見通しについて、
　　ご説明いたします。

○ 先ほど、栗田が、
　　通期の業績予想について、
　　ご説明いたしましたとおり、

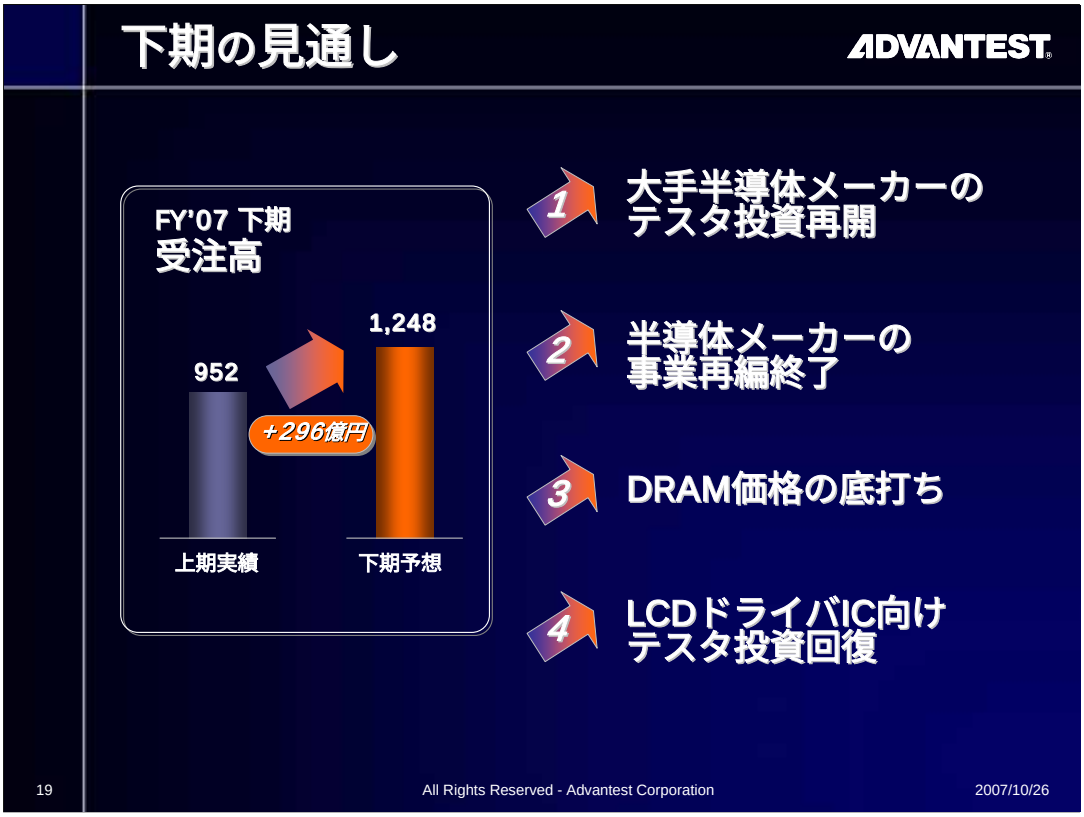
　　今年度下期の受注高は、
　　上期比 31.1%増の 1,248億円を、
　　予想しておりますが、
　　それを実現するための、
　　4つの重要なポイントについて、
　　ご説明いたします。



○ 1つ目は、
大手半導体メーカーによる、
設備投資の再開を見込んでおります。

特に、メモリIC最大手のメーカーが、
最近、設備投資の上方修正を発表しました。
このことによる、
テスタ需要の回復を予想しております。

○ 2つ目に、
半導体メーカーの事業再編がひと段落し、
欧米のＤＲＡＭ、フラッシュ・メーカーなどにより、
テスタ投資が回復すると見込んでおります。

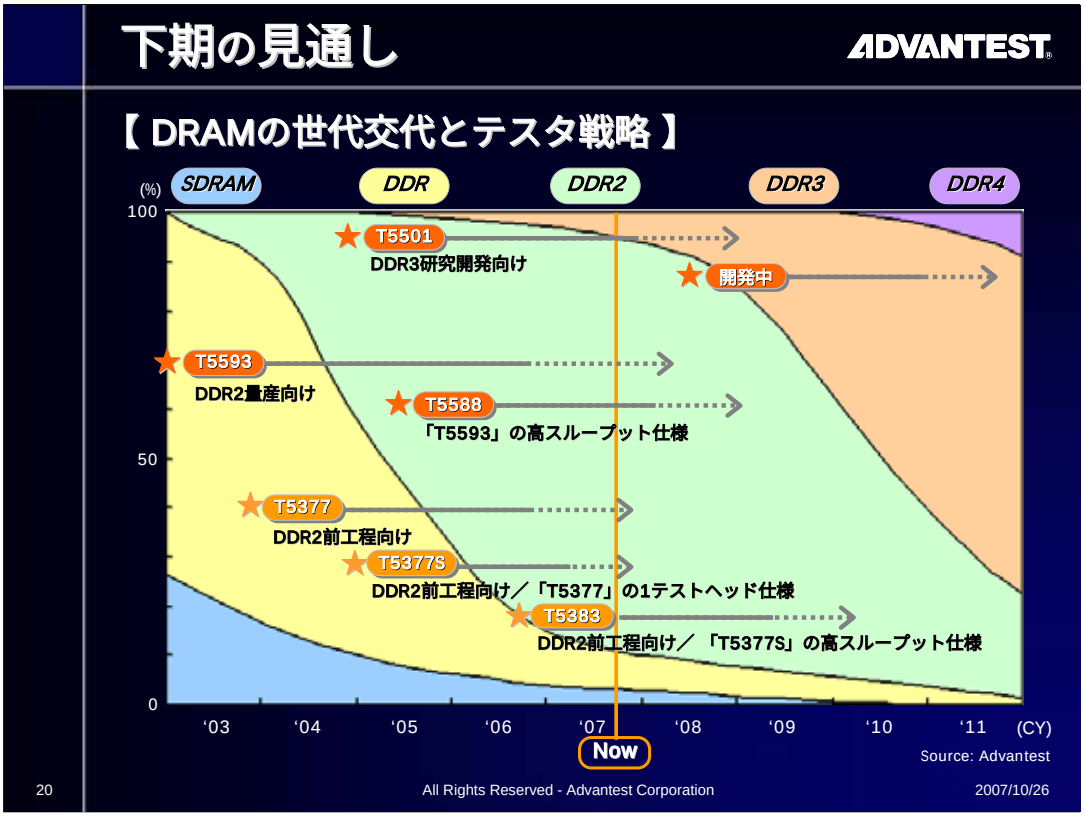


○ 3つ目は、
　　ＤＲＡＭ価格の底打ちに対する期待です。

○ 現在、
　　ＤＲＡＭ価格は、大口価格の先行指標となる、
　　スポット市場での在庫が積み上がり、
　　スポット価格の大幅下落や、
　　それに引きずられた形で、
　　大口価格も低水準に推移したことから、
　　ＤＲＡＭメーカーも、
　　設備投資の抑制を余儀なくされてきました。

　　しかし、
　　今年度前半に期待された、
　　新しいＯＳを搭載したパソコンの需要が、
　　今後、法人向け置換えを中心に本格化され、
　　ＤＲＡＭの需要は回復することが予想されております。

　　これに伴い、下期の後半にかけて、
　　台湾、韓国などで、
　　テスタ需要の回復を見込んでおります。

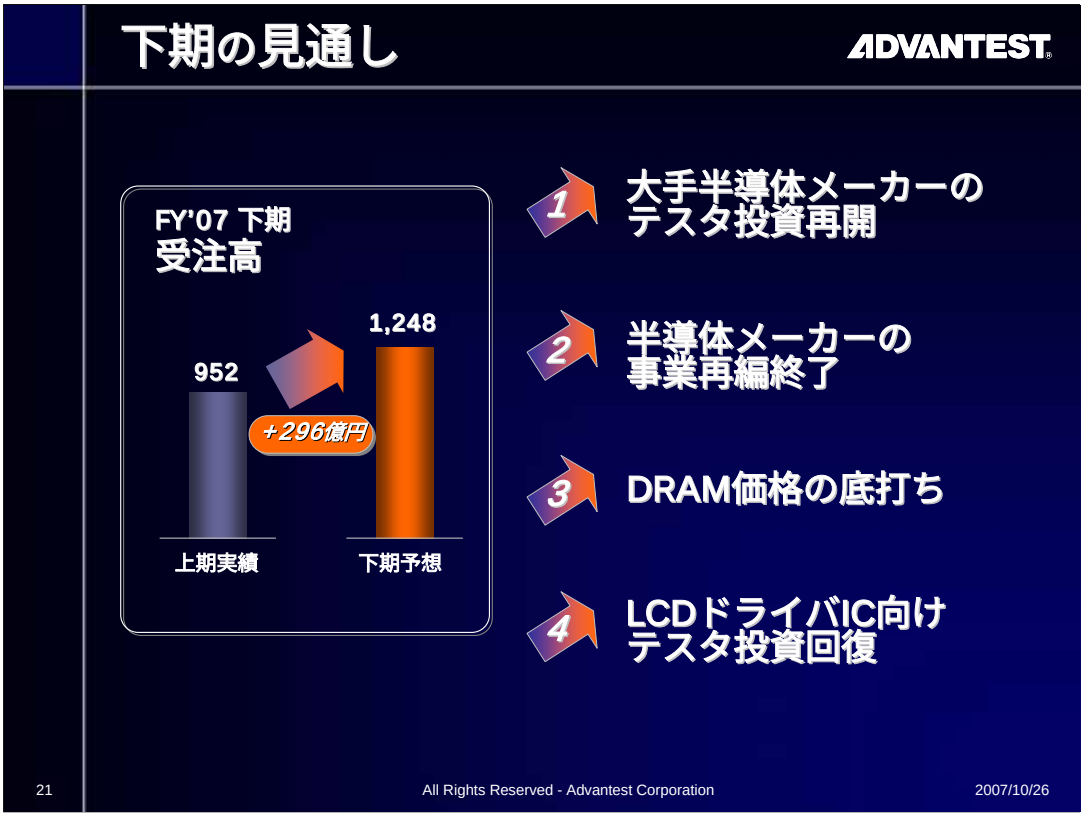


○ 当社では、

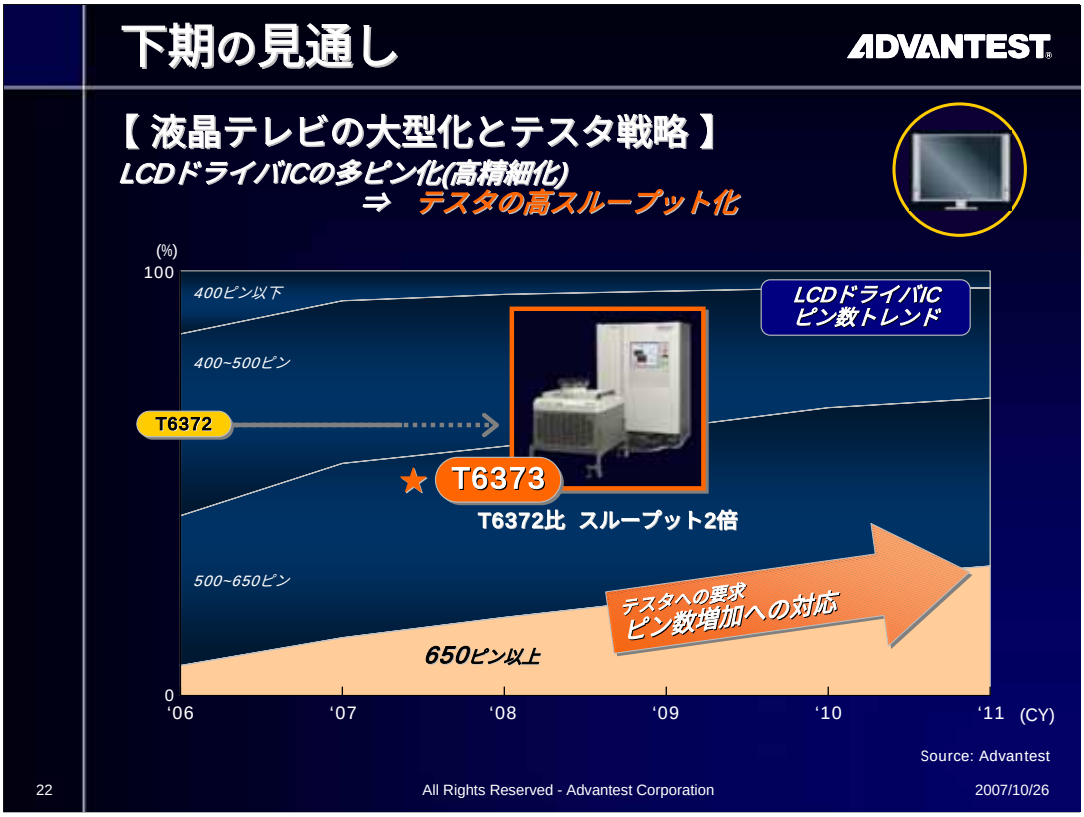
この図に示すとおり、
これまでも、
ＤＲＡＭの世代交代に合わせ、
タイムリに新製品を投入してまいりました。

ＤＤＲ2向けでは、すでに、
高スループットの製品を投入しており、
今後のＤＲＡＭ需要の回復による、
テスタ需要の増加を見込んでおります。

さらに、来年度以降に、
量産開始が予想されるＤＤＲ3向けテスタに対しても、
タイムリな市場投入を計画しております。



○ 4つ目は、
　　ＬＣＤドライバIC向けテスタ投資の回復です。



○ 液晶テレビが大型化し、
より高精細化するにつれ、
搭載される液晶駆動用ICもより高機能化し、
ピン数が増加する傾向にあります。
それらの多ピン化したICを、
高スループットで試験できるテスタが、
求められております。

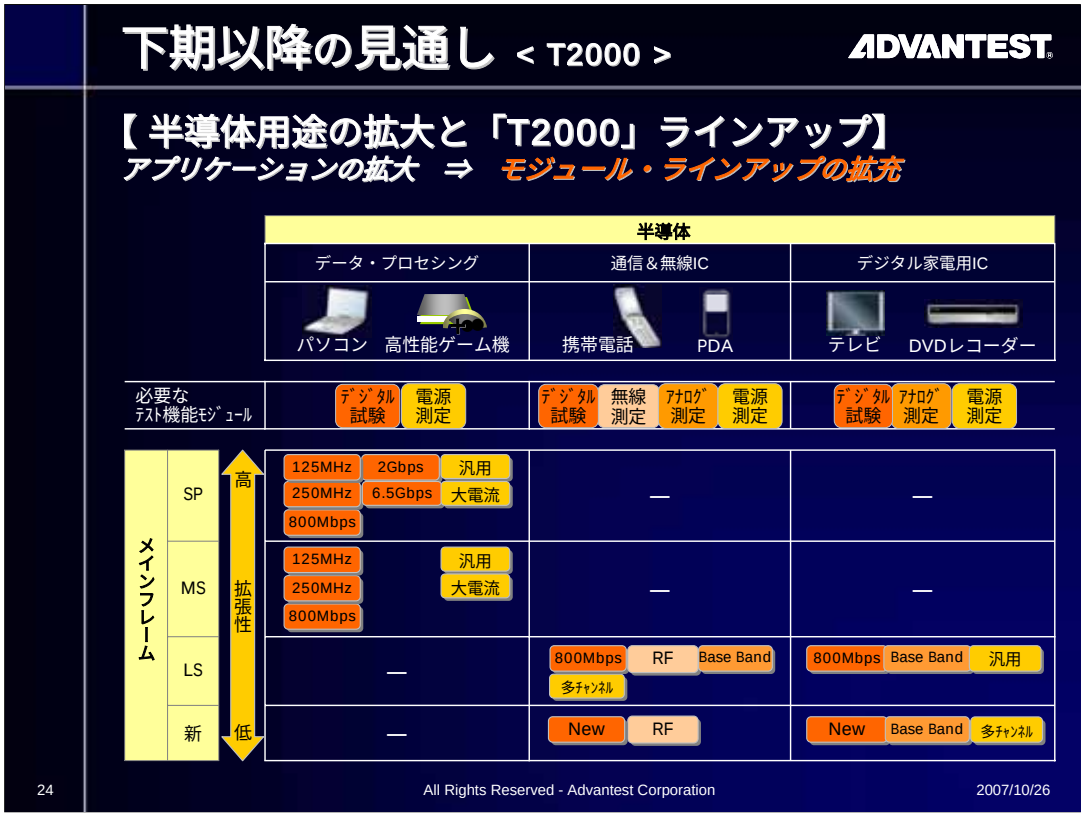
○ 当社では、今年 5月に、
他社よりも高スループットな新製品を投入しており、
下期半ば以降、日本を中心に、
本格的な需要増加を見込んでおります。

○ また、
ＬＣＤドライバICのメイン・アプリケーションである、
ＰＣパネルやモニター向けについても、
テスタの稼働率は高まりつつあり、
下期半ば以降、台湾を中心に、
テスタへの投資が回復するものと予想しております。

○ 以上、

上期の計画未達要因の分析に基づいた、
下期の見通しについてご説明いたしましたが、

それらに加えて、
下期以降の成長要因について、
さらに、ご説明したいと思います。

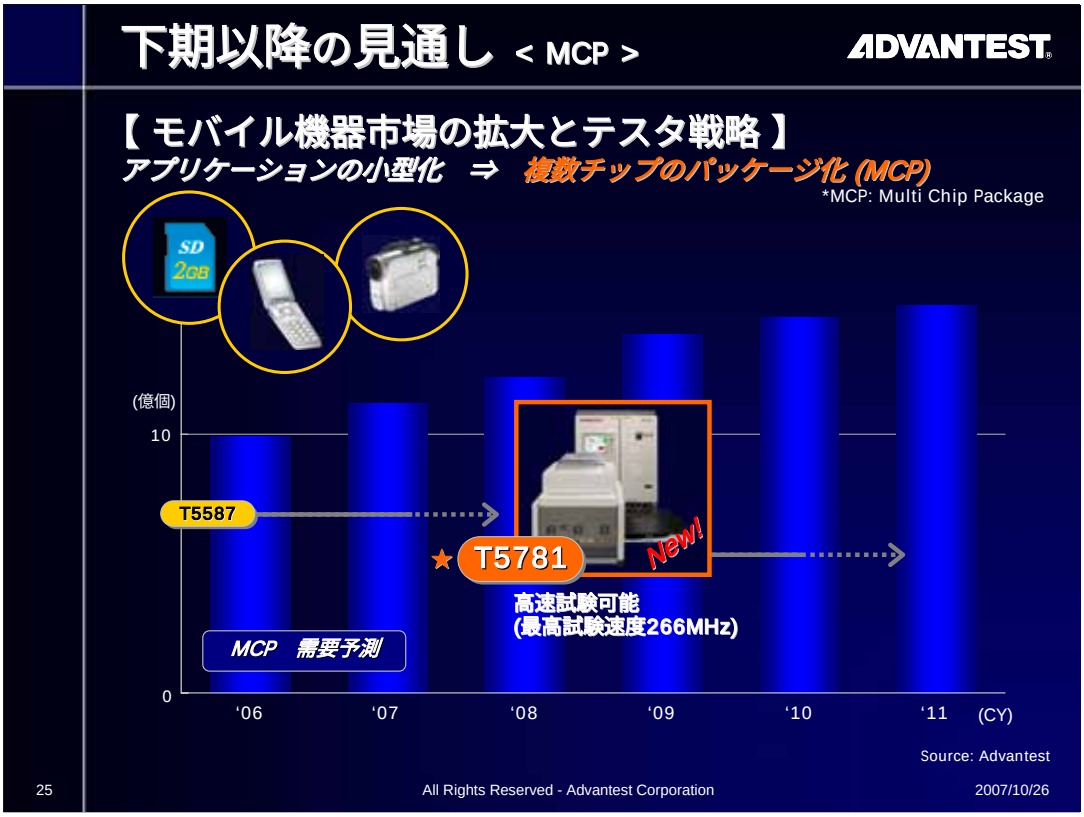


○ まず、
　　大きな成長を期待している製品の一つが、
　　「T2000」です。

○ T2000は、
　　オープン・アーキテクチャーの、
　　コンセプトに基づいて開発された、
　　メインフレームとモジュールを組み合わせることにより、
　　様々なアプリケーションに対して、
　　より最適なテスト・ソリューションを提供しております。

○ つい先日には、
　　「RFモジュール」と、
　　「2Gbps デジタル・モジュール」の、
　　２つの新モジュールを発表いたしました。

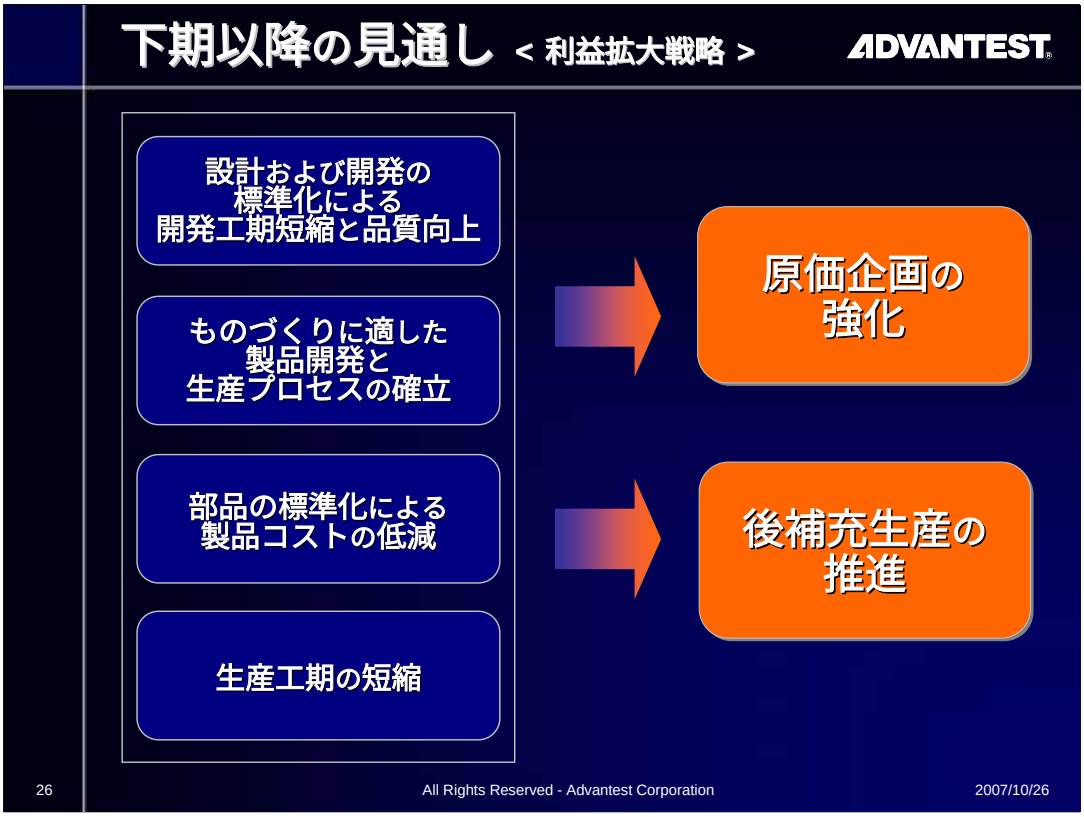
○ これにより、
　　T2000のラインアップがほぼ出揃い、
　　顧客の様々な要求に応える万全な体制が整いました。
　　今後は、この幅広いソリューションを武器に、
　　さらなる顧客の拡大を図ってまいります。



○ また、もう一つ、
　　成長を期待している製品に、
　　ＭＣＰ（マルチ・チップ・パッケージ）向け
　　テスタがあります。

○ モバイル機器が小型化することで、
　　限られたエリアに、
　　複数の機能を有するメモリ・チップを混載した、
　　ＭＣＰの需要の増加が見込まれております。

○ そこで、
　　当社ではこのたび、
　　ＭＣＰ向けとしては業界最高水準の
　　２６６ＭＨｚまで試験可能な新製品、
　　「Ｔ５７８１」を投入し、
　　ＭＣＰ向けテスタでのトップ・シェア獲得を、
　　目指してまいります。



○ 次に、
利益拡大に向けた取組みについて、
ご説明いたします。

○ 昨今の
デバイス価格の下落や、
テスタ市場の競争激化により、
当社製品への価格プレッシャーも、
日を追うごとに増してきております。

○ このような厳しい状況の中で、
継続して利益を確保するためには、
・開発工期の短縮および品質の向上
・ものづくりに適した製品開発と生産プロセスの確立
・部品の標準化による製品コストの低減
そして、
・生産工期の短縮、という4つの重要な視点から、
コスト管理を徹底させる必要があると考えております。

○ 具体的には、
新たに、原価企画本部を設置し、
製品の原価企画を導入することで、
製造コストの管理のみならず、
設計開発を含めた投資回収までの、
その製品に関わるトータルなコスト管理を徹底させ、
これまで精力的に取り組んできた、
後補充生産方式とをリンクさせて、
さらなる収益性の拡大を図りたいと考えております。

○ また、
今年 6月に設立した当社 100%子会社、
「アドバンテスト・コンポーネント」において、
MEMSスイッチなどの、
テスタの基幹部品の自社開発を行うことにより、
他社と差別化された製品開発に取り組んでまいります。

○ さらに、
次世代プローブカードの開発を強化して、
早い段階で製品化し、
テスタ・メーカーとして、
プローブ・カード・ビジネスに参入することで、
ビジネスの拡大を図ってまいります。

○ なお、
「アドバンテスト・コンポーネント」では、
現在、新しいクリーンルームを建設中で、
今年中には、
今ご説明しましたビジネスへの準備を整える予定です。

ADVANTEST
One Last Thing …
28
All Rights Reserved - Advantest Corporation
2007/10/26

○ 最後となりますが、

○ 当社の「利益配分に関する基本方針」 に基づき、
株主への利益還元を行なうとともに、
資本効率の向上を図るため、
本日の取締役会において、
株式数で ５５０万株、
取得総額で ２００億円を上限とする、
自己株式の取得を決議いたしました。

○ 自己株式の取得につきましては、
今後も、この基本方針に基づき、
財務状況などを勘案しながら、
適宜検討していきたいと考えております。

○ 以上で、私からの説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

ADVANTEST

ご注意

◆ 当社は米国会計基準を採用しております。

◆ 将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料及びアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

ADVANTEST®